令和3年8月

令和2年度不妊治療と仕事の両立に関するアンケート
調査結果報告書

三重県子ども・福祉部子育て支援課

調査概要

（１）目的

不妊治療と仕事との両立支援に向けて、現在治療を受けている方々の実態を把握するとともに両立に向けての現状や課題を明確化し、今後の取組につなげる。

（２）調査対象

・特定不妊治療費助成申請のために市町窓口に来所した方（3/5 以降開始）

・令和２年度特定不妊治療費助成承認決定者、新型コロウイルス感染症に係る特定不妊治療費助成承認決定者

（３）調査期間

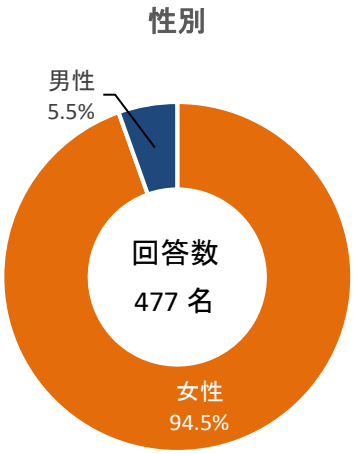
令和３年２月上旬から５月 14 日（金）まで

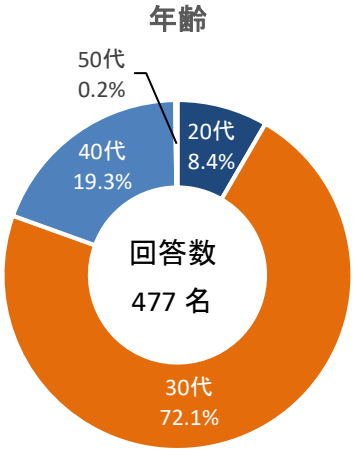
（４）調査方法

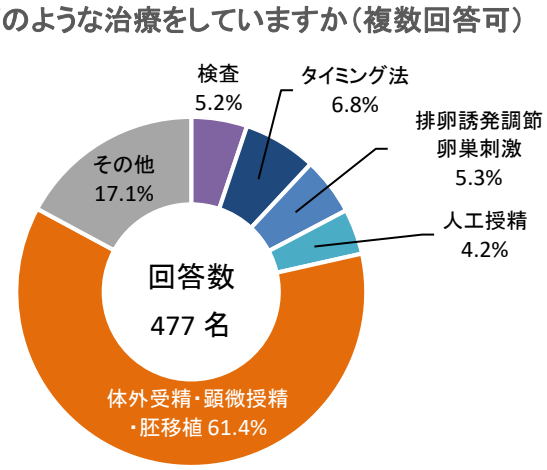
三重県電子申請・届出システムによるアンケート調査

（５）アンケート回答件数　477 件

回答者基本データ





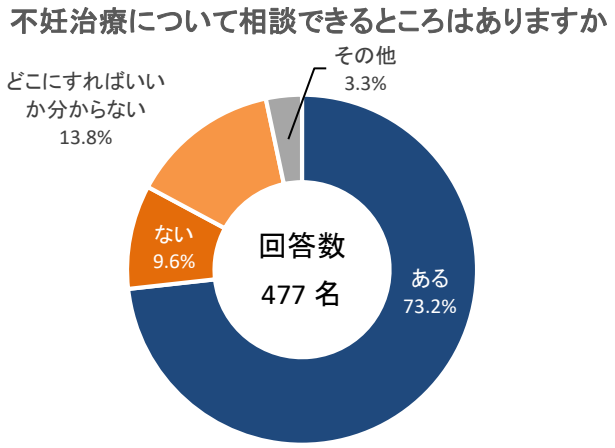


回答いただいた方のほとんどが女性。年齢は 30 代が 72.1%と最も多く、次いで 40 代の 19.3%となった。治療をしている方の多くは、企業の中心として働くことの多い世代であることが分かる。

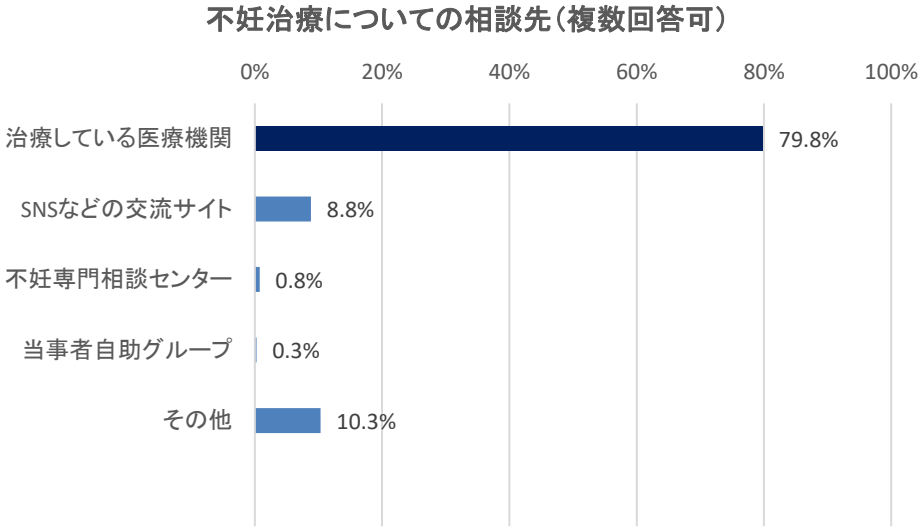
また、今回は特定不妊治療費助成申請のために市町窓口に来所した方や、特定不妊治療費助成承認決定者を対象としているため、回答者の多くが体外受精や顕微授精のステップに進んでいた。その他の回答には、治療を経て現在妊娠中、または出産したとの声も多く寄せられた。

相談先について

約 23%の方が、「相談できるところがない」または「どこに相談すればいいか分からない」（参考：令和元年度は約 45%）

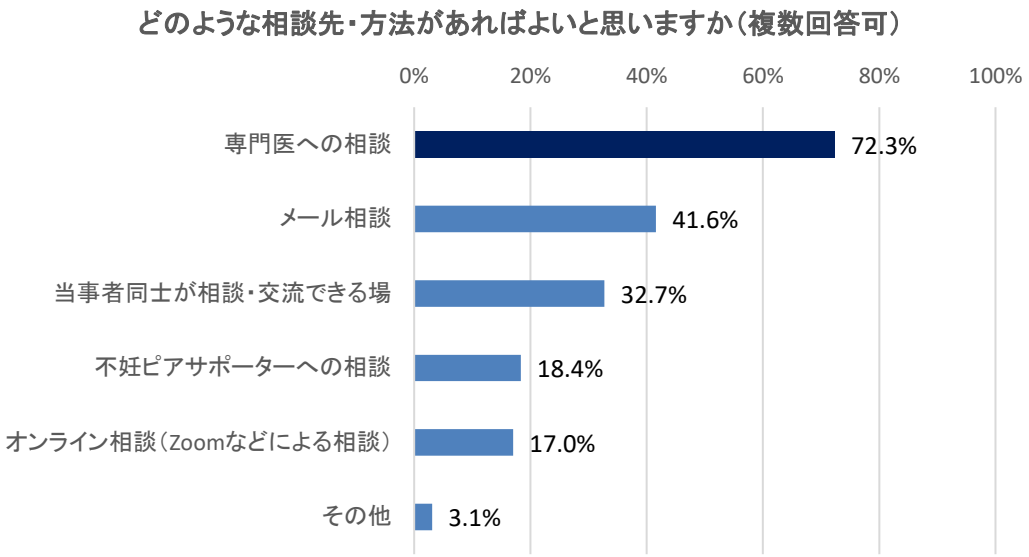


大多数は、相談先として医療機関を利用している



回答者の大多数は、相談先として医療機関を選択していた。県の不妊専門相談センターを利用しているのはわずか 0.8%（令和元年度は 1.6%）であり、より多くの方に利用していただくために周知方法を工夫する必要がある。また、その他に「不妊治療を経験したことのある友人や先輩に相談している」、「不妊治療経験者にしか

相談できない」といった回答も多く、不妊治療経験者（ピア）による相談対応のニーズがあると考えられる。



希望する相談先については、専門医への相談を求める声が 72.3%と最も多かった。また、当事者同士が相談・交流できる場所、不妊ピアサポーターへの相談など、同じ悩みや不安を共有できる人への相談を求める声も多くみられたことから、不妊ピアサポーターを中心に、自助グループへと発展させられるような取組が必要だと考えられる。

相談先について～当事者の声～

（１）現在の相談先について

選択肢の他に、「不妊治療していた友人や先輩」、「家族」など身近な人が相談先として挙げられたが、内容によっては相談できないときもあるという意見もみられた。

友達が胚移植してるためとても心強かった。	周りにも不妊治療の経験者がいるが、相談できる時もあればできない時もある。	夫、母、妹など家族

（２）希望する相談先について

選択肢の他に、専門家による相談窓口や SNS 相談を求める声がみられた。また、中には誰にも相談したくないという方もいた。

医師だけではなく、内容により看護師や薬剤師、栄養士等に相談できる窓口。

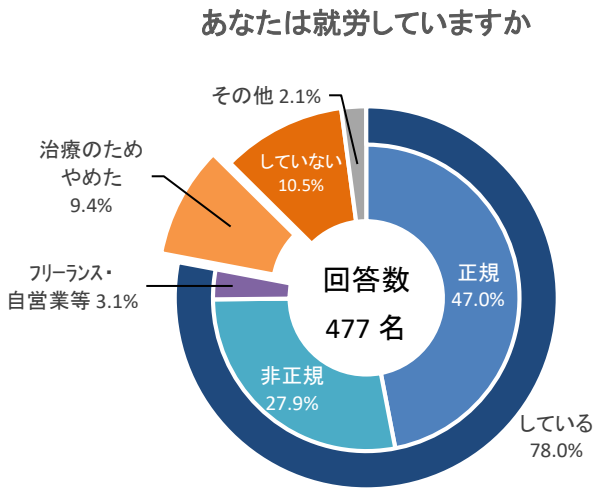
LINE やチャットのように、いつでも時間のあるときに相談できる場所がほしい。

特に誰かに相談したいと思わない。

オープンには話しにくい。

不妊治療と働き方について

約９％が不妊治療のために仕事をやめており、さらに働き方を変えた人も
（参考：令和元年度は約 11％）



9.4%の方が、「治療に専念するために辞めた」と回答した。また、「正社員からパートに変えた」といった声もあり、自分の希望どおりに働くことができていない方が多くいることも分かった。

ただ、これらは自由記載欄から判明した事実であり、「非正規」と答えた方の中にも、治療のためにやむを得ず正規から非正規に変えたという人が多数いると考えられる。当事者だけでなく、貴重な人材を失うといった点で、企業にとっても深刻な問題であるといえる。

退職したことについて～当事者の声～

設問　なぜ、治療に専念するため辞めたのですか？（回答数:55 名）

治療のために急な休みを取ることや遅刻・早退することに対して、上司や同僚に後ろめたい気持ちや心理的ストレスを感じ、退職に至ったという方が多くみられた。

決まった時間に注射を打たなければならないことや、採卵日があらかじめ指定されることから、急な休みや遅刻は避けられないものであるが、そもそもそういった不妊治療に関する知識や理解が職場に浸透していないことが背景にあると考えられる。

残業ができなくて他の人に負担をかけてしまうことになり仕事と治療の両立がストレスになってしまった。

職場で嫌味を言われたり体力的に限界だったり平時に泣き出すようになり、自分で自分がコントロール出来なくなった。

周りへの負担が大きくなり無視されるようになった。身体も心も追い詰められてしまった。

上司や同僚から『いつになるの？』『だいたいどれくらいなん？』『困るんだよねぇ』と言われるストレスで退職を決めました。

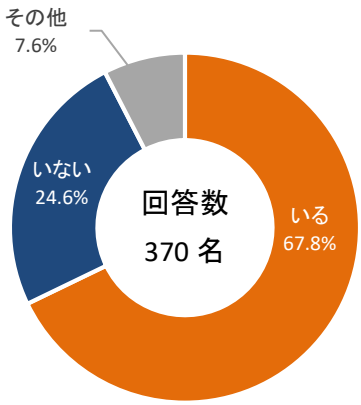
通院による２、３日前の勤務変更が難しい職場であったため、周りに迷惑をかけてしまうと判断した。

有給が足りなくなったのと、急に休んで周りに迷惑をかけてしまう自分に耐えられなくなったから。

職場の理解について

現在就労中の方の約 68%は、不妊治療をしていることを職場の人に話している（参考：令和元年度は約 61%）

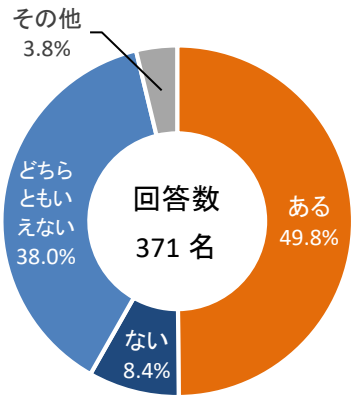
治療していることを職場の人に話していますか



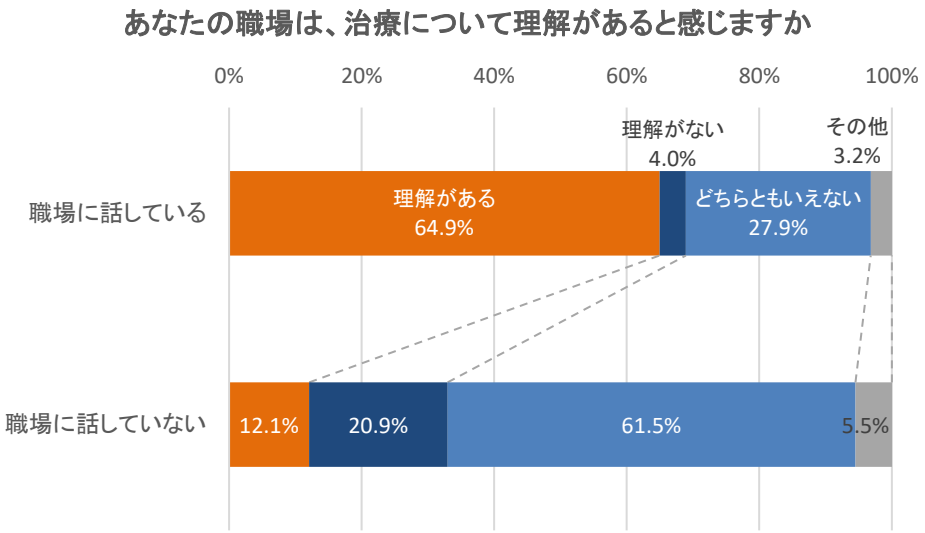
職場の人に話している方が、話していない方を上回っている。ただし、その他に「上司にだけ話している」、「本当に仲が良い人にだけ話している」という声があったことから、話していると答えた 67.8%の中にも、一部の上司・同僚にしか話せないという方が多くいる可能性が考えられる。

現在の職場に不妊治療への理解があると感じている方は約半数
（参考：令和元年度は 48.6%）

あなたの職場は、治療について理解があると感じますか



職場に「理解がある」と感じている人は 49.8%と、前回のアンケートと同程度で推移。また、「理解がない」の 8.4%に比べ、「どちらともいえない」が 38.0%と多くなっている。その他に「話していないからわからない」、「上司が男性なので話しづらい」という声があり、職場に話していない人の多くが、理解を示してもらえるかわからないため、このように答えていると考えられる。



不妊治療について、「職場の人に話している人」と「話していない人」で比べると、理解があると感じているかどうかに大きな差があった。これは前回のアンケートでも同様の結果であり、やはり職場に話しやすいかどうかは、理解があると感じられるかどうかに直結していると考えられる。

ただし、「上司に話してはいるものの、治療の大変さを理解していない」との回答もあったため、不妊治療をしていることを話しやすい環境を整備するとともに、管理職の不妊治療に関する理解をより一層深めることが重要である。

職場の理解について～当事者の声～

（１）職場の理解を求める声

多くの方が職場の理解を求める意見を記入していた。「不妊治療は誰にでも起こりうること」、「言えないだけで悩んでいる人はたくさんいる」など、子育てや病気、介護などと同様に、不妊治療もごく一般的なことであるという理解を求める意見もみられた。

不妊治療は珍しいことではなく当たり前にあることを理解してほしい。そのうえで、できる範囲のサポートを実施してもらいたい。

職場には理解してもらえたらそれでいい。仕事に差し支えるようになるときは、一緒に考えてくれるような職場づくりをしてほしい。

治療について分かっていない方が多く、「急に明日休むって言われても…」と言われたりするので理解を深めてもらいたい。

体外受精など本格的に治療を始めると毎日病院へ通う必要があるため、職場の理解がなくては仕事を続けるのは不可能。

最低限でもいいので、不妊治療の内容や通院の回数などを知ってもらえたら有難いです。

不妊治療をしている人は言えないだけで、たくさんいることを分かってほしい。

（２）職場の理解を得るのが難しいとする意見

不妊治療の内容はまだ一般的に知られておらず、通院の頻度や休暇の必要性について理解を得るのが難しいという意見が多くみられた。

上司に話してはいるものの、治療の大変さについては理解の範疇を超えている様子。

周囲の理解を深めるために、治療のことを話す必要があるのは分かっているが精神的につらい。周囲も反応に困っているように感じる。

不妊治療をしている人を病気、病んでいるととらえる方もいて、あまりにも理解がない。

上司の理解がなく、勤務体制について相談しても不妊治療の身体的・精神的苦痛を理解しておらず、応じてくれない。

まだまだ不妊治療に対する世間の理解が得られない中、職場の人全員に治療していることを公表するのが怖い。

表向きは理解を示されるが、態度で不平等さを感じていた。はっきりと「不妊治療なんてやめれば」と言う人もいた。

（３）職場の理解はあっても両立は難しいとする意見

職場には話せるが、実際は休みが取りづらかったり有給が足りず、やはり両立は難しいとする声もあった。理解を得ることができても、休暇制度等のサポート制度が追い付いていないことが考えられる。

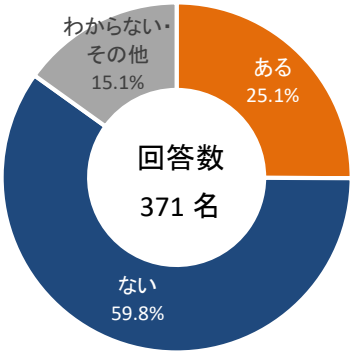
短期間で授かれば問題ないが、治療が長引き、業務に支障が出てくると嫌な顔をされる。

理解は示してもらえるが、実際は休みが取りにくかったり、サポート体制がない。

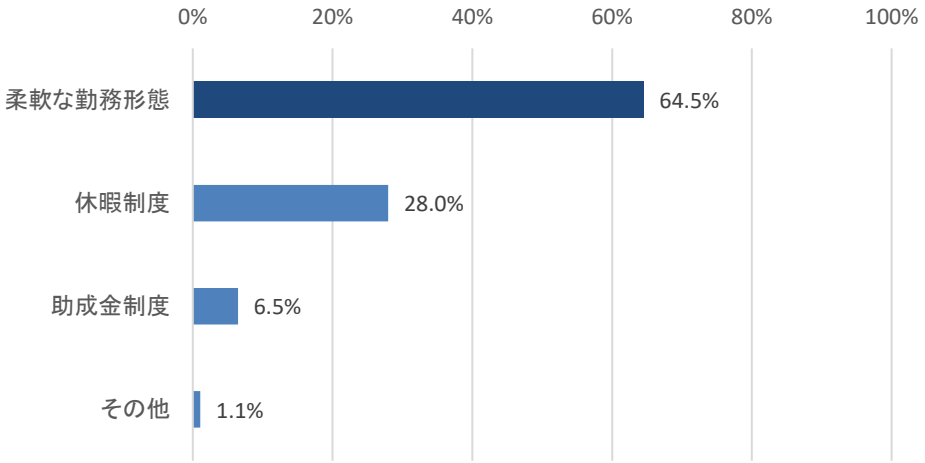
職場のサポート制度について

現在就労している方のうち、職場に不妊治療をサポートする制度があるのは約 25%（参考：令和元年度は約 20%）

職場に不妊治療をサポートする制度はありますか



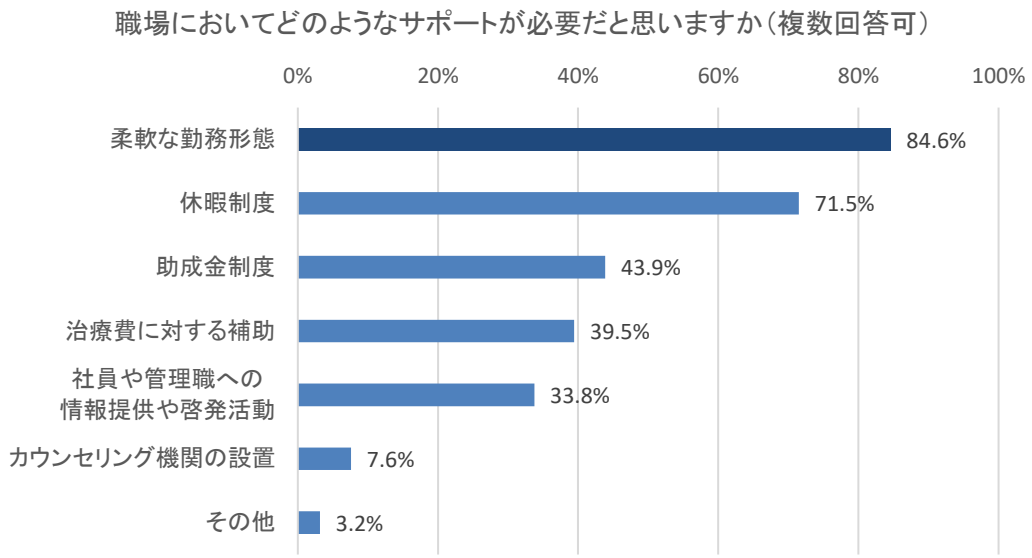
職場でのサポート制度が「ある」と答えた方の内訳



「ある」と答えた方の職場のサポート制度のうち、最も多いのが「柔軟な勤務形態（テレワークなど）」で 64.5%、次に多いのが「休暇制度」で 28.0%、「助成金制度」は最も少なく 6.5%だった。

また、休暇は取りやすいが、有給休暇がすべて治療のために消えてしまうため、リフレッシュする時間がないという声もあった。

職場に求めるサポート制度の中で最も意見が多いのが、「柔軟な勤務形態」



柔軟な勤務形態や、休暇制度を求める声が多かった。特に、育休のような長期休暇や、男性でも気軽に取りやすい特別休暇が多く求められている。

また、不妊治療に限定せず、育児をしている人、介護をしている人、持病や障がいがある人など、すべての人が自分の希望する働き方を実現できる職場環境を望む声もあった。

サポート制度について～当事者の声～

（１）柔軟な勤務形態を求める声

早い時間帯や日中など、希望する時間に気兼ねなく通院できることから、フレックスタイム制や在宅ワーク制度を求める声が多くみられた。

毎日の注射のため、勤務時間を柔軟に変えてもらえると嬉しい。１時間早く退社する分早く出社する、翌日残業するなど。

フレックスタイム制や、在宅勤務など人の目を気にせずに治療に専念できる勤務形態。

治療が長引いている時に、何度も通院のための業務調整を報告するのが苦痛になるため、流動的に業務時間を変更できると助かる。

（２）休暇制度を求める意見

有給休暇に加えて、男女問わず取得できる不妊治療休暇や、長期休暇を求める声が多くみられた。

通院のために使える特別休暇制度があれば良いと感じました。また、男性向けの休暇制度もあれば良いと思います。

１人目の場合だけでもいいから、育休のように、期限が決まっている長期休暇があるといい。

治療休暇が欲しいです。また、休暇を取りやすい環境づくりのため、不妊治療を行っていない人への啓発も合わせて行ってほしいです。

（３）その他

柔軟な勤務形態や休暇制度を求める声が多い中、社員研修など職場への理解を深める取組を求める声も多くみられた。両立のためにはサポート制度と職場からの理解の両方が必要であると考えられる。

社内の専門相談窓口など、相談しやすい環境がほしい。

不妊治療に対しての理解が得られるよう、e ラーニング等で研修をおこなってほしい。

人員の確保。人員に余裕があれば急な休みも取りやすく、不妊治療中も心穏やかにいられるかと思います。

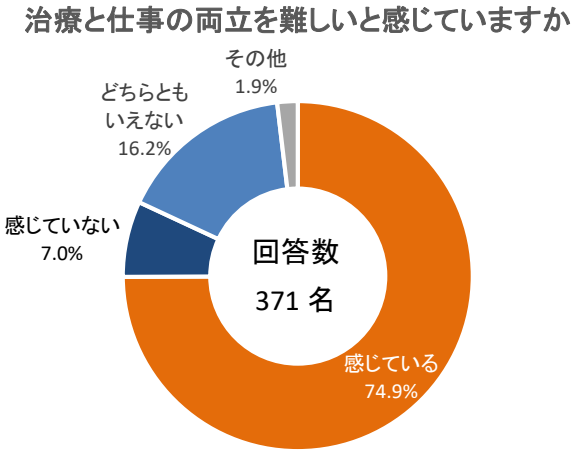
人権セミナーなど、社員教育の一つとして行っている取組に、不妊治療も取り入れて周知してほしい。

女性職員が少ない職場なので、もっと上司に女性がついて、話しやすい環境がほしい。

急な休みが取りやすいようなフォロー体制の構築、業務負担を減らす取組をしてほしい。

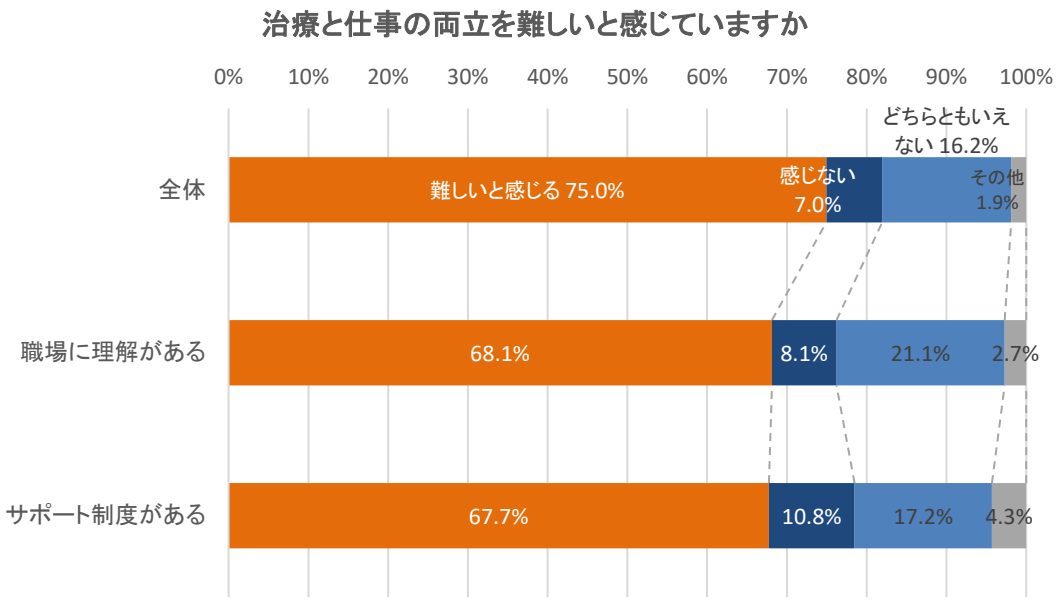
不妊治療と仕事の両立の難しさについて

仕事を続けている方の中でも、約 75%は不妊治療と仕事の両立を難しいと感じている（参考：令和元年度は約 66%）



半数以上の方が、両立が難しいと感じている。その他に「病院が今よりも遠方だったら両立は難しかったと思う」、「非正規であれば両立は可能だと思う」という声があり、居住地や勤務形態など、複合的な要因が影響していると考えられる。

職場の理解やサポート制度があれば、両立を難しいと感じる人の割合は低くなる



職場の理解があると感じている人や、会社にサポート制度がある方については、両立が難しいと感じる割合は低くなっており、両立のためには、職場環境の整備は必要不可欠であることが分かる。

両立の難しさについて～当事者の声～

（1）両立ができている方の声

両立できているという方からは、「たまたま病院が近いから」、「正社員だったら難しい」、「今の部署だからこそ」という声がみられ、多くの方が他の職場では両立が難しい、すべての人が両立できるわけではない、と考えている。

たまたま家の近くに医療機関があったため、両立に支障はなかったが、通院時間や医療機関での待ち時間を考えると難しい場合もあるように感じる。

私の会社は時間を取りやすいので、予約した日に（治療に）行きやすいですが、工場勤務の方等はなかなか難しいと思います。

私はパートで、同じ職場に不妊治療をしていた方がいたので職場の理解が得られやすく、特に支障はなかったが、これが正社員だったら治療は難しいな、と感じる。

職場の理解があったので、仕事との両立を行うことができた。ただ、すべての人がそういうわけではないので、やはり色んな人が理解できるような啓発を行う必要がある。

私自身は職場に不妊治療について伝えていたため取り組みやすかったし、勤務交代しやすい環境だったので良かったが、職種によっては難しいだろうなと思った。

職場は普段から休暇がとりやすく、病院は診療時間が定時退勤後でも通える時間帯まであるので、上司や同僚に治療していることを話す必要がなかった。この点では治療と仕事を両立できる環境に恵まれていたと思う。

（2）両立は難しいという方の声

やはり多くの方が、急な休みや早退・遅刻が必要なことにより、心理的ストレスを抱えている様子。高額な治療費のためにも仕事を続ける必要があるが、治療が原因で仕事に支障をきたしてしまうというジレンマに悩んでいる方も多くみられた。

急な休みをとる必要があり、仕事の都合をつけることが難しい。仕事も中途半端になり、働いていない方がいいのではないかと考えてしまう。

両立できるならそれが一番望ましいが、病院の待ち時間含め２時間は仕事を抜けないといけないため迷惑もかかる。治療と仕事、どちらかを取らないと難しいと思った。

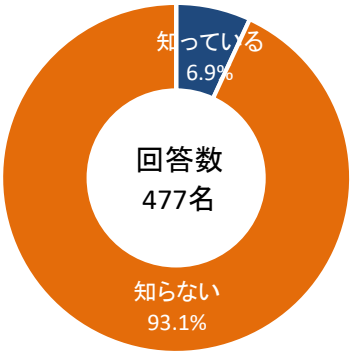
シフト制パートの私でさえ、予定を組むのが大変。正社員の方はどのように治療しているのだろうと疑問に思うぐらい、治療と仕事の両立は難しい。

治療のため、仕事を急に休まなくてはならない。でも、治療費は高額なため仕事は辞められない。両立は難しいと思った。

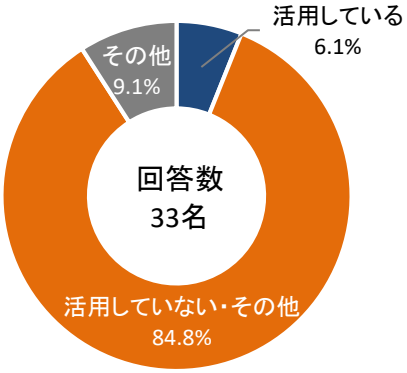
理解を求めるのは難しいことと分かってますが、女性同士でもなかなか話せない内容なので、もっと知られて両立できる体制が整うといいなと思います。

仕事を続けている方の中で、不妊治療連絡カードを知っている人は約７％、そのうち活用している人は約６％（参考：令和元年度設問なし）

「不妊治療連絡カード」を知っていますか



「不妊治療連絡カード」を活用していますか

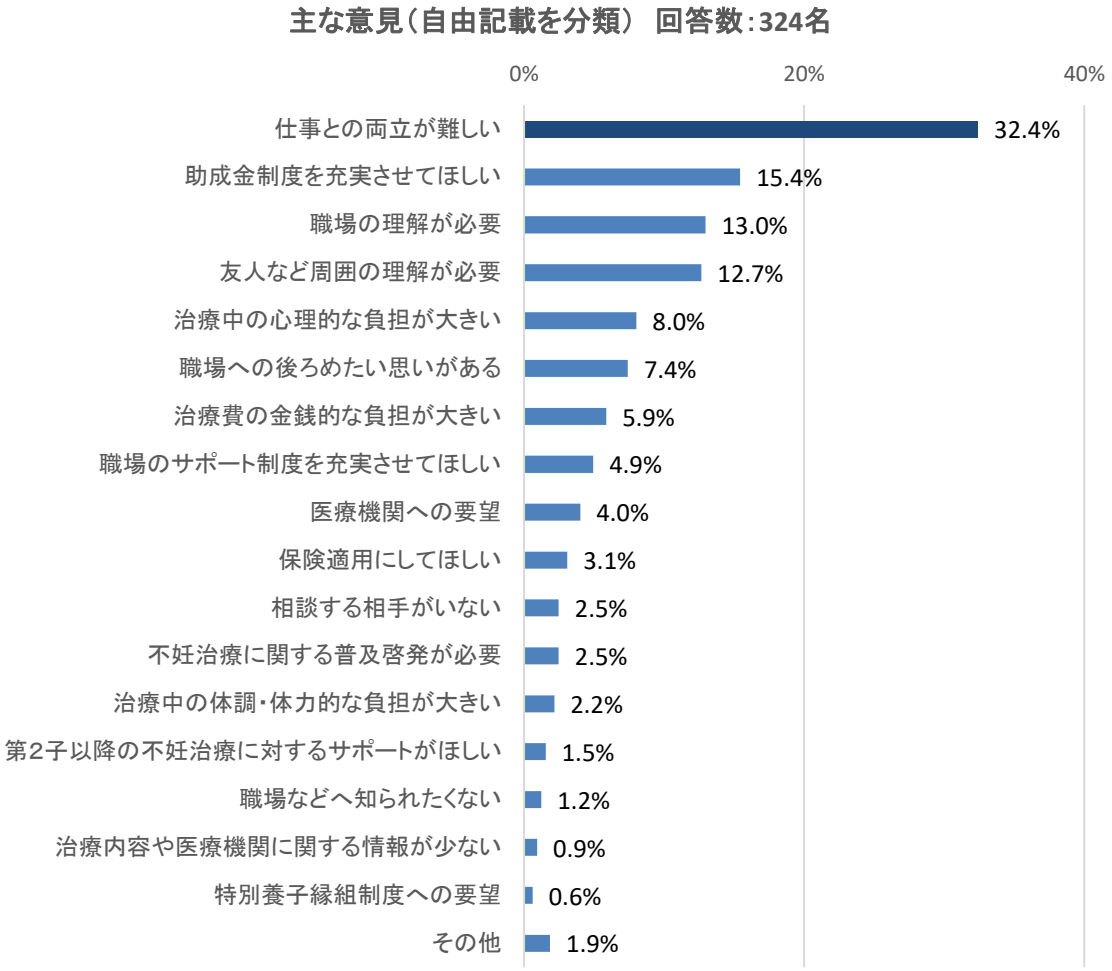


不妊治療連絡カードを知っているという方は6.9%と非常に少なく、活用しているという方も少なかった。「職場の理解がないと使っても無駄」、「提出したが理解されなかった」という意見があり、不妊治療に対する理解や職場環境がある程度整っていないと、このようなツールは十分に活用できないことが分かる。

自由記載欄のその他の意見

自由記載欄には約 68%の方が回答。不妊治療中の方の切実な意見が綴られていた（参考：令和元年度は約 40%の方が回答）

設問　仕事と治療の両立やその他あなた自身が感じていることなどご自由にお書きください



主な意見

（１）仕事との両立や職場への希望に関する意見

これまでの項目で紹介した意見以外にも、仕事との両立へのストレスや難しさを訴える意見が多くみられた。

どうしても迷惑がかかるので急に休ませてもらうのが本当に心苦しかった。みんな親切だったから、自分が気にしなければよかったのかもしれないけど、なかなか難しい。

仕事との両立はストレスではあるけれど、働かないと高い治療費が払えないので働かざるを得ない状況です。

フリーランスなので、金銭面などで補償がないため、通院や体調に支障があっても仕事が休めない。

妊娠希望があると正規職員で採用してもらうことをしぶられた。ただ、治療を継続するにはお金が必要でもあり、正規職員でしっかり働きたい。

不妊治療に限らず、働き方がもっと柔軟な社会になってほしいと思う。

まだまだ金額や休暇、周りの理解といった点で、不妊治療と仕事の両立というハードルは非常に高いと思う。中でも最も重要と感じるのが周りの理解。

（２）助成金に関する意見

金銭面での不安に関する意見もみられ、中でも助成金制度の拡充（特に回数の無制限撤廃）を求める意見が多かった。また、保険適用を求める意見も 10 件ほどみられた。

頑張れば必ず報われるわけではないので、お金がやはりたくさんかかりました。もう少し補助金が欲しかったです。

助成金制度にはとても助けていただきました。今後、今よりも治療を望むたくさんの方に適用されるように、制度の拡充を願います。

年齢が上がると回数が少なくなるのはどうかと思う。
諦めるように言われているよう。

高度な治療をしていなくても、もう少し助成金が出ると嬉しい。

不妊の原因は不明の人が多く治療過程もそれぞれだが、上限があるのは悲しい。7 回目以降は減額でもいいので、回数縛りをなくしてほしい。

助成金を活用しているがそれでも出費は多いので保険適用を早くしてほしい。

（３）心理的・体力的負担を訴える意見

先の見えない治療や、子どもがいないことに対する肩身の狭さなど、職場でのストレス・悩み以外にも心理的負担を感じているという意見が多く寄せられた。また、身近な人からのプレッシャーや子どもを持つ友人に対する劣等感なども心理的負担の要因となっている。

本当に、言いやすい環境にまずはなって欲しいです。自分自身もはっきり言ってないので偉そうに言えませんが、婦人科系の治療としか言えてない自分が辛い。

治療しながらも本当に子どもができるのか不安を抱えながら、孤独で、出口のないトンネルを走り続けているような気持ちになります。

いくらお金をかけても出口が見えない気がして前向きになれないときがある。そして、いまだに子どもがいないことで肩身が狭く感じることがある。

体外受精をしていると薬の副作用もあり、何度しても上手くいかず精神的にも肉体的にも辛かった。

不妊治療中の仲間とも話しにくい。相手が授かった時に、心から祝福できない。子供の写真や動画を送られる事がつらくなり、家族･友人と疎遠になる。

同僚や友達、両親からでさえも心ない言葉が胸に刺さる事があります。同じ女性でも経験した人にしか本当に不妊治療がどういうものか分からないと思います。

（４）その他

その他の意見として、医療機関への要望や第２子に関する悩みの他、若い世代に向けたプレコンセプションケア（将来の妊娠を考えながら、女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うこと）を求める声もみられた。

不妊治療していることをあまり人に知られたくない。
制度ができるに伴い、プライバシーもしっかり保護してもらえるようにしてほしい。

若い頃から、女性の生き方について考える機会を与えることや、妊娠適齢期などの正しい知識を得られることが必要だと思う。

不妊については、結婚して初めて自分が不妊だと知るため、気付いたころには手遅れの場合がある。若い頃から学校などで不妊に関する授業をしてほしい。

不妊治療は結婚後のことだと考えがちだが、独身の頃から、それこそ 20 代のときから自分の体のことを知りケアしておくことも大事だと思いました。

地元に不妊治療をしてくれるクリニックがなく隣の市に通っており、１本の注射のためだけに毎日通院するのは負担だった。

第二子の治療に子供を連れていくのですが、不妊治療専門病院だとやはり周りの目が気になることはあります。もう少し低料金で預けられる場所があると嬉しいです。

（参考）新型コロナウイルス感染症に関する意見

設問　新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する中、不妊治療に対してどのようなことを感じますか。（回答数：289 名）

新型コロナウイルス感染症に関する設問では、感染リスクと自身の年齢から、治療を続けるかどうか葛藤する意見が多くみられた。また、不安を感じる意見が多い中、通院がしやすくなった、治療に集中できたなど、メリットを感じている意見もみられた。

感染が広がる中、感染への不安を感じながら治療を進めるか、年齢のリミットが近づく不安を感じながら治療を延期するかを悩んだ。

一周期も無駄にできない中、「不妊治療は不要不急」と言われたことはショックだった。

外出自粛などで治療中の気分転換がしにくい。

在宅勤務になり通院しやすくなった。

当初はコロナ禍での治療を続けるべきか悩んだが、不妊治療は時間も重要な要素なため、不安は残っているが、今まで通り、治療を続けることにした。

今までなら友達と会ったりする予定と病院の予定が被らないよう調整したりしていましたがコロナでなかなか会う機会が減って逆に病院の治療に集中できました。

不安でしたが年齢に余裕がないので進めるしかありませんでした。
収入も減りお金の面で一番苦労しました。